



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	焼津冷凍島田ドライセンター 新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	--------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6 / 5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 / 5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 / 5		ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7 / 5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上 がんばろう 3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	3.6
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		2.9
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的に利用する側の普段のメンテナンスし易さを考慮した設計とした。 耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長く出来るよう努めた。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		3.5
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑階高6.90m以上、天井高2.40m以上を確保。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮)	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉒ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		2.7
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉕建物の周囲へ緑地帯を設け、環境に配慮した。 ■敷地外環境対策 (㉖持続可能な森林から産出された木材/㉗温熱環境悪化の改善)	Q-3 1 ⑳ 2 ㉓ 3 3.2 ㉔ LR-2 2 2.5 ㉖ LR-3 2 2.2 ㉗	㉓ 生物環境の保全と創出 ㉓ まちなみ景観への配慮 ㉔ 敷地内温熱環境の向上 ㉖ 持続可能な森林から産出された木材 ㉗ 温熱環境悪化の改善

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	焼津冷凍島田ドライセンター 新築工事	階数	地上3F
建設地	島田市中河字八幡島新田境938番地	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	0人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年12月30日
敷地面積	4,477㎡	作成者	高田 辰男
建築面積	2,330㎡	確認日	
延床面積	6,817㎡	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

★ ★ ★ ★ ★ A ★ ★ ★ ★ B+ ★ ★ ★ B- ★ ★ C ★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.5**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 0.0**

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気環境	N.A.

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 2.8**

機能性	1.5
耐用性	3.2
対応性	4.2

Q3 室外環境(敷地内) **Q3のスコア = 2.4**

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.0

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 4.3**

建物外皮の熱負荷	N.A.
自然エネルギー	4.0
設備システム	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 2.6**

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	2.4
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.4**

地球温暖化への配慮	4.0
地域環境への配慮	2.9
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	*これはCASBEE静岡(2016年版)による評価です。	
その他	特に無し	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
0	・室の階高を6.90m以上確保。 ・標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的に利用する側の普段のメンテナンスし易さを考慮した設計とした。 ・耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長く出来るよう努	・緑地帯を設け、環境に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・建物全体BEI=0.47 ・LED照明の採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	・節水型の衛生設備を採用する。 ・再利用可能な部材、リサイクル材などの採用に努めた。 ・鉄骨躯体と仕上げ・設備配管・配線等、工種別の解体が容易にできるようにした。	・駐車場の台数の確保、導入路・配置等に配慮した。 ・夜間における敷地内歩行者・自動車のための照明を設置する。 ・出入口付近での安全を確保する為、出入口付近では歩行者・車両共に十分な見通しを確保する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい